

男女共同参画社会を目指して

Challenge!



それぞれの **男女共同参画** チャレンジストーリー

「チャレンジストーリー」では、個人・団体・企業の皆さんのチャレンジをご紹介します。起業、地域活動、働きやすい環境づくりなどさまざまな分野で広がる男女共同参画社会。それぞれの活動を参考に、皆さんも新しいチャレンジを始めてみてください。

菊池美圭さんは、今年の三月に出身地の大子町にレストランをオープンさせました。料理に興味を持ったのは、小学生の頃。父の同級生のフランス料理のお店に、家族で食事に行き、あめ細工のデザートがきれいだったのが印象的で、私もフランス料理が作りたいたいと思っただけのこと。

フランス料理を志した菊池さんは、高校を卒業後、東京の辻調理師専門学校に入学、卒業後に同校のフランス校で学び、フランスのホテルで研修を受けて帰国。さらに東京や



りんご園が見渡せるように大きな窓にしたという店舗。

challenge! story 1 個人の取り組み

地元奥久慈に

こだわる女性

オーナーシェフ

奥久慈レストラン「リュタン」

菊池美圭さん

水戸のフレンチレストランで九年間修行をし、奥久慈レストラン「リュタン」を開業。「料理の世界は男性が多いのですが、同年代の男性には負けないぞという思いがありました。でも女性だからできないという頑張れば身につくものは沢山あります。違

いは体力が足りない。辛い私は、体力にも自身があつたので頑張れました(笑)」と、修行当時を振り返る菊池さん。 レストランの周りは、ご実家のりんご園です。りんご園の売店の改装計画から発展し、レストランを始めることになりました。自分が基盤を作って、ゆくゆくは弟さんに任せたいと考えているそうです。そんな菊池さんの喜びは、お客様に「おいしかった」と言われること。そのおいしい料理は、地元奥久慈や茨城の食材にこだわっています。そして地元



夏のコースの一品、「奥久慈しゃものプロジェクト」。

の人が気軽に来られるお店にしたいと、あえてフレンチレストランではなく奥久慈レストランにしたそうです。オープンして四ヶ月、地元のお客さんも増えてきています。

ご自身の性格は、「男っぽいやいと言われます。あまりよくよくはないから」と、笑顔で話す菊池さん。これから起業をしたいと考えている女性へのメッセージは、「起業をするには大変なこともあると思いますが、それは男性だって同じです。考えていても始まらないので、やってみることで、自分の器量の範囲でやるということは大切です」と、今がとても楽しいという菊池さんの料理は、奥久慈の食材と奥久慈の人びとへの愛情に満ちています。



ゆば、こんにゃく、奥久慈茶、りんごなどを料理に取り入れるオーナーシェフの菊池美圭さん。

Challenge! storyz

団体の取り組み

大人と子どもが育ち

合える地域づくり

NPO法人 水戸こどもの劇場

袴塚 宏美 さん



事務局長の袴塚宏美さんは、お子さんが小さい頃は会員として子育て支援を利用していました。

「こどもの劇場」は、昭和四十一年に福岡の市民運動から始まった、文化・芸術や遊びの体験を通して、子どもと大人がともに育ち合える地域をつくっていかうという活動です。現在では四十七都道府県の六百を超える地域に広がり、各地域で子どもたちの体験活動・子育て支援活動・文化芸術活動・社会福祉サービス活動を展開しています。

「水戸こどもの劇場」は、今から三十九年ほど前から活動を始め、NPO法人となって十一年目を迎えました。その

活動内容は、実に多彩です。子育て支援活動では、エルマークラブ（おもちゃサロン）、フェアリーキッズ（0歳児のサロン）、あにま



高校生が企画し、毎年開催しているデイキャンプ。

学時の遊びの会)、親子たいそうなど盛り沢山。研修の企画運営・講師派遣の分野では、CAP（子どもへの暴力防止プログラム）のワークショップを展開しています。さらに、水戸市の受託事業で未就学児と保護者のための広場「ぼかぼかつどいの広場」を開催。また、キャンプや交流会など、

中学生・高校生・青年による企画も発信しています。

会員数は四百六十二名、0歳児

のお母さんから六十代までと年齢も幅広く、子育て中に会員になり、ボランティアとして活動をお手伝いされている会員の方もいるそうです。活動は年間約六百回、参加者は延べ二万五千人を超えています。



「予定表には毎月事業がいつばいで、集中したときは事務局は大忙しです。収入は少ないので、お金はないのに元気！みたいな感じですよ（笑）」と話す事務局長の袴塚宏美さん。

同劇場からは、新たな活動も生まれています。「みとび音楽隊」は、子育て支援事業で知り合ったお母さんたちが立ち上げたブラズバンドサークルです。「若いお母さんたちが、赤ちゃんにおっぱいを飲ませながら練習しています。色々なイベントに呼ばれて演奏するときには、お子さんを預



会員のお母さんたちのブラズバンドサークル「みとび音楽隊」

かるのですが、お父さんたちが来ていっしょにみてくれたりします。子どもがいるからできないということではなく、お母さんたちの頑張り周りのサポートがあればできるんだと実感して「いまいとお母さんたちのパワーに感心し、嬉しく思っている袴塚さんです。



お父さんたちも積極的に子育てに参加しています。

それぞれのプログラムでは、講師や見守り役としてスタッフが活動しています。「何かをしよう」とすると、できる人が誰かいるのです。皆互いにできること、できないことがあること、ちょうど上手く回っています。すぐできる人が何人かいるのではないところが、この団体のいいところです。お互いに助け合い、認めあう。だからこそやりたいことができるのです」と袴塚さん。今後も、同劇場に集う皆さんが、やりたいことを発信し、持っている能力を発揮できるきっかけづくりをしていきたいということでした。

環境を整備し、

女性の活躍をサポート

(株)セントフォローカンパニー

とみおか せいしろう
富岡 聖司郎さん



企業として男女共同参画を実践する(株)セントフォローカンパニーの代表取締役社長 富岡聖司郎さん

水戸市に本社を置くセントフォローカンパニーは、北関東を中心に約四十店舗を展開する調剤薬局です。地域密着型の「かかりつけ薬局」を目指し躍進を続ける企業には、その躍進を支える従業員思いのさまざまな制度やサポートがあります。

女子従業員が全体の約七十四パーセントを占める同

社では、特に女性を対象とした制度が充実しています。たとえば、パート従業員も育休を取得できる制度や、短時間勤務制度、女性管理職の登用、専用託児所「SFCキッズランド」の開設などです。

育休・産休は多くの企業が導入していますが、専用託児所というのが女性従業員に高い評価を得ています。開設のきっかけは、「これまでは結婚後に妊娠して退職される方が多く、非常に優秀な皆さんなのにもつたないかと思っていました。子育てをしながら仕事を続けたいという女性従業員も多く、なんとか出産後も継続して働いてもらえないかと考え、いろいろと調べていたところ、21世紀職業財団が企業の託児所開設を助成していることを知り、協力を



セントフォローカンパニーでは、多くの女性従業員が活躍しています。

得てスタートしました」と、代表取締役社長の富岡聖司郎さんは話されます。

SFCキッズランド勝田を平成十二年に開設し、その後平成十六年にSFCキッズランド水戸を開設。0歳児から就学前までのお子さんを、保育士と栄養士がお世話をしています。福利厚生施設であるキッズランドは利用者的好评で、キッズランドがあるという事で入社を決める方もいる

同社では、女性管理職の登用にも積極的に、取締役や部長職の女性が



福利厚生施設として好評のキッズランド(託児所)。

多く活躍しています。さらに短時間勤務制度を活用して、パート従業員が時間を有効に使い仕事をしています。勤務中はキッズランドにお子さんを預けられるのも、パート従業員にとって大きな魅力です。キッズランドは、「従業員からの要望があれば、さらに増やしていきたい」と考えているそうです。

女性が男性と共に活躍するフィールドを整えられている富岡さんに、男女共同参画社会への思いを伺うと、



働く女性たちを支援する制度が整っています。

「当社の薬局を見ていただけばわかるのですが、大きな店舗でも女性スタッフだけで運営している店舗もあります。薬剤師とか医療事務の仕事は、男女の差がないのです。男女が同等に仕事をしています。男女共同参画のハーモニー功労賞を受賞した企業として、これからも男女がいつしよに、男女の差なく良い環境で仕事ができるように取り組んでいきます」と話されました。

人々の生活に安心と信頼を届ける調剤薬局を目指す同社は、従業員の生活にも安心と信頼を提供しています。